

地域文化 SDGs 賞

宇都宮市立

城山西小学校 卒業生

孝子桜まつりでの箏演奏



**活動期間**

**2023年3月～（7回ほど活動）**

**構成人数**

**中学生41名・高校生12名・大人5名**

**SDGs テーマ**



## 推薦メッセージ

本校児童は、学校の特色の一つ「文化人の先生の授業」の一環で、箏曲家和久文子先生に箏を教えていただいております。練習にも演奏会にも多くの箏が必要であるため、学校では使用しなくなったお箏の寄贈を募っています。「寄贈されたお箏によって、子供たちに学ぶ機会が生まれ、さらにその箏を使い演奏することでたくさんの方々に曲を披露することができ、人の思いが繋がっていく。」このことが、持続可能な循環型教育の一つになっていると考え、推薦いたします。

**宇都宮市立城山西小学校 校長 松浦 好尚**

# 活動内容

城山西小学校は、児童数が減り廃校の危機となった平成17年度から、小規模特認校の指定を受け、宇都宮市全域が学区となりました。当時から教職員と地域が一体となり、様々な工夫と努力を重ね、その危機を乗り越え現在に至ります。その様々な工夫の一つが、地域が主催している「孝子桜まつり」です。学校の校庭の中央にあり、シンボルともいえる孝子桜。毎年春には、満開の孝子桜の前に赤い毛氈を敷き、100～120面もの箏を並べ、児童や生徒が箏の演奏を披露しています。今年は4年ぶりの開催となり、コロナ禍のため中止となった3年の間に卒業した子供たちが「孝子桜まつり」に帰ってきました。総勢50名の卒業生が集まり、箏で「桜舞曲」を演奏しました。城山西小学校では、卒業生たちが集まって練習する機会を夕方から夜の時間に設けました。最終リハーサルには、NHKの撮影取材・放送日も重なり、演奏をたくさんの方々に披露する機会にも恵まれました。放送をご覧になった全国の方々から、小学校へ箏の寄贈のお話をいただいております。

# 01.活動をはじめたきっかけ

## 卒業前にコロナ禍で中止となった 孝子桜祭りの箏演奏が再開

毎年、城山西小学校の卒業生は、春に開催される「孝子桜まつり」で箏の演奏をし、学校を巣立っていきます。しかし、ここ数年はコロナ禍のため、最後の演奏をできずにおりました。その最後の演奏をできずに卒業した子供たちから、「孝子桜の前で箏を演奏しないと卒業した気持ちになれない。」と声が聞こえてきました。そこで、令和5年、祭りの再開にあわせて、卒業生に声を掛けると九割以上の子供たちが、母校に戻り演奏することになりました。小学校時代に和久先生にご指導いただいた箏の演奏技術を頼りに、「母校でみんなと一緒に箏を演奏したい。」という思いで、時間を見つけて城山西小学校へ集まり、練習を重ねることにしました。

## 02.活動から学んだ・感じたこと

### 小学校時代の箏との出会いが 宝物のような時間を作った

卒業してから数年たっても、「箏を演奏したい。」という思いを抱いたのは、小学校時代に伝統楽器である箏と出会いその温かい音色に触れたこと、皆で演奏する一体感の心地よさを味わっていたこと、そして何より和久先生という素晴らしい文化人の先生に出会えたからこそです。今回の経験を通して、共に学んだ仲間たちが久しぶりに母校で出会い、心を合わせて「桜舞曲」を演奏できたことが、時間を共有したみんなの何よりの宝物になりました。そして、祭りにいらした大勢の方々に演奏を聴いていただいたことが、これからの生活への励みや自信につながっています。



# 03. 継続するためのこれからの工夫

## 地域社会との関わりと 一緒に演奏する仲間を大切に

「孝子桜まつり」という箏を披露する場があることが大切であると思います。学校と地域が今後も連携を進めていくことが必要です。また、仲間がいることも大切だと考えます。ひとりではできないことも、誰かと一緒に行くことでできることもたくさんあります。さらに、お箏です。授業を受けるときや演奏するときには、たくさんのお箏が必要になります。学校にあるお箏の数が限られていますので、今後も不要となった箏の寄贈を募っていきたいです。それが、物を大切にすることにもつながると考えています。

# 活動の略歴

令和5年  
3月 個人練習 2日  
全体練習 5日  
NHK生放送  
4月 孝子桜まつり